

⑥9 肱川河川激甚災害対策特別緊急事業 堤防本体完成

受賞機関 国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所

キーワード 激甚災害対策、上下流バランス、暫定堤防嵩上げ、
陸閘構造

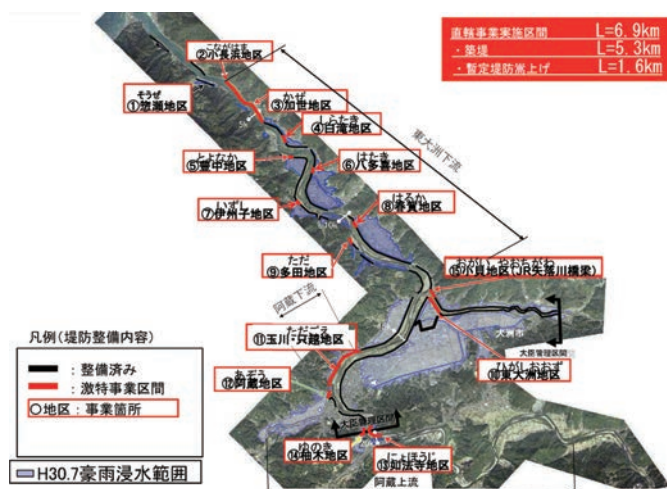
全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨を受け、「肱川緊急治水対策」を推進。堤防を整備し、同規模の洪水でも越水を防ぐ安全対策として、短期間で15地区の堤防整備を完了。堤防形式の工夫やプレキャスト製品の活用により施工の合理化・効率化を図り、工期短縮を実現した点が評価された。

1. はじめに

平成30年7月豪雨により甚大な被害（床上浸水約2,672戸、床下浸水約874戸）を受けた肱川流域では、再度災害の防止を図るため、国・県・市が連携し、ハード・ソフトの両面から取り組む「肱川緊急治水対策（つなごう肱川プロジェクト）」を推進した。

当事業は、肱川緊急治水対策におけるハード整備の根幹として位置付けられた「河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）」の国管理区間として、肱川中下流部15地区（約6.9km）の堤防整備を行った。



肱川河川激甚災害対策特別緊急事業

2. 事業の概要

本事業は、これまでの肱川の河川整備方針に従い、下流から順次堤防を整備し、上下流のバランスに配慮する整備方針とした。令和4年度末までに東大洲地区を含む下流11工区の堤防整備を完了させ、東大洲地区から上流地区4工区の堤防整備を令和5年度末までに完成させた。

激特事業期間の5か年という限られた期間内で、15工区・約6.9kmの堤防を完成させるため、堤防形式の工夫、陸閘構造による堤防締め切りやプレキャスト製品の活用など、最大限の施工の効率化を図りながら、事業期

間内で堤防整備を完了させた。

一例として、玉川只越地区は、背後地には市道平地慶雲寺線が通り、狭隘な地区に家屋が密集している。さらに、N値3程度の軟弱な地層が、深いところで10mほど続いているため、通常の土堤方式での築堤が困難な地域であった。

激特事業期間中に、約1.7kmの堤防を完成させるため、大型ブロックによる築堤や特殊堤（パラペット）のプレキャスト化などにより工期を約150日間短縮し、事業期間内で堤防整備を完了させた。



完成した玉川只越地区

3. 事業の成果

本事業により、昭和18年の洪水被害以降、約80年にわたる悲願であった肱川の国管理区間の堤防が完成し、平成30年7月豪雨と同じ洪水が発生しても、堤防から越水しないよう対策が完了した。

4. おわりに

本事業の推進に当たっては、再度災害防止を図るため、国・県・市が連携し、ハード・ソフト一体となった「肱川緊急治水対策（つなごう肱川プロジェクト）」を推進した。

ご協力いただいた関係者の皆さま、多大なるご理解を賜った地域の皆さまに、改めて感謝の意を表する。

賛助会員 (株)新井組、向成建設(株)、中央コンサルタンツ(株)、
(株)東京建設コンサルタント、(株)建設技術研究所、(株)建設マネジメント四国